

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270500810		
法人名	株式会社 桔梗グループ		
事業所名	グループホーム ききょう苑		
所在地	千葉県千葉市緑区あすみが丘8-6-1		
自己評価作成日	平成23年2月3日	評価結果市町村受理日	平成23年6月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都港区台場1-5-6-1307		
訪問調査日	平成23年4月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

規則などで縛る施設ではなく、自由な住いとしての空間です。入居者様それぞれの生活スタイルを第一に考え、必要な事のみ手を差し伸べる介護サービスを提供しています。喜怒哀楽のある生活を目標にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

千葉市郊外の大規模開発による閑静な住宅地に位置する2階建て2ユニットのホームです。
 1. 運営法人は旅行業も営んでおり、介護施設と共通した理念として”おもてなし”の心を前面に出しています。
 2. 災害時に備え備蓄用水タンクを設置している他、近隣にある運営法人代表者の自宅を避難場所として開放し、利用者の安全を第一として取り組んでいます。
 3. 生活保護者や脳障害者を受け入れて、その利用者が元気に職員と一緒に他利用者へ声をかけたりして、なごやかな共同生活が営まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員一体で取り組んでいます。	事業所の理念は”ききょう苑のおもてなし、やすらぎの空間、ゆったりとした暮らし、真心とぬくもりの介護”としています。毎月1回の職員会議で社長から職員に対して理念について説明と話し合いが行われています。	利用者が地域と繋がりながら生活出来る様、理念に地域密着の考え方を取り入れて全職員で共有出来るようにすることが求められています。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃の挨拶や、祭事へのお誘いにて交流しています。	近隣住民と顔見知りになり、利用者の散歩時に声をかけあっています。地元のサマーフェスティバルやコミュニティセンターの行事を見に行ったりして、交流を深めようとしています。	代表者が地元出身で地域各所に人脈があるので、いろいろな形で地域との関わりを深めていくことが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に活かしてはいません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第三者からの意見を重視し、即サービス向上に役立てています。	運営推進会議は年1回、利用者家族8組程度、社長、管理者、職員で行っています。家族会としての色合いが強くなっています。	外部の人間の目を通して地域の理解と支援を得るために、町会長や民生委員、地域福祉施設関係者、行政関係者等に参加を促して年間計画を立てるなどして2ヶ月に1回の開催を目指すことが望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	特に協力関係を深める事はしてません。	月1回、生保関係者の取り扱いや介護保険関係等で市担当者と面談して相談しています。必要が生じた時は電話で市担当者と連絡をとりあっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は開設以来一度もありません。全体会議では必ず身体拘束の無い介護サービス継続への理解を話し合っています。	身体拘束に関する外部研修会へ参加していません。利用者に帰宅願望が強いので、安全上玄関は当初より電子錠にして自由開放はしていませんが、利用者が希望すれば職員が開けて同行しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は開設以来一度もありません。身体拘束と同じく全体会議にて話し合っ理解し合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	完全な理解の上、契約を行っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様のご要望などは、即対応しております。	開設当初より、利用者家族同士の懇親を主な目的として、家族会を年1回開催しています。開催時は社長も出席して意見や要望を聞いて即断即決しています。家族は週1回～月1回面会に来ておりその際にも意見要望を聞いています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議で発言の場を設け、必要とされるものはサービスに反映しています。	職員会議は月1回社長出席のもと夕食会を兼ねて開催し職員の意見や要望を聞いています。必要がある時はホーム長が職員と個人面談を行って直接意見や要望を汲み取るようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれのスタッフが頑張った分だけ、給与及び賞与での評価をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域の研修への参加をしています。学んだ事を全職員へ報告しサービスに取り組みんでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者・管理者が同業者との交流を密に行い、必要な情報を全職員と話し合いサービス向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活環境の変化は不安になる事を考慮し、よりこまめな声がけやご要望に応じております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のご要望はいつでも気軽にお申し出頂ける様、専用の担当者がございます。不安な事などのお申し出には即対応致します。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な話し合いの上、重要視する事などを把握した上での介護サービスの計画を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全職員には、住いの空間において皆家族としての心で生活をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様へ日頃、来苑を求め催事なども一緒に参加頂きご本人様とご家族様との絆を深めるお手伝いをしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の馴染みの人達のご来苑の便利を計り、関係の継続支援を行っています。馴染みの場所は現在、ご要望者がいませんが必要とされる場合対応します。	週1回は面会の為来訪する家族、支払いを兼ねて月1回来訪する家族など様々ですが、友人知人が2~3ヶ月間隔で訪れ外出や外食に同行する利用者もいます。ホームでは馴染みの美容院に定期的に行くなど、利用者の要望に添うよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の場なので、孤立する事はありません。孤立したがる方もおりますが、孤立したままありませんが、無理にレクリエーションに参加させる事はありません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	少しの間でも家族生活を行った方ですので、お困りの事などへの支援は継続しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の意向に基づく介護サービスを行っております。	本人の意志の表示を重視していますが、家族の意見や協力を得ることもあります。声かけを行い、人によってはベルを振るなどのサインを出してもらって把握しています。常に利用者の表情や仕草を見落とさないようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様・ご家族様より、今までの生活状況を伺い継続出来る様、サービスに活かしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各職員が日誌などで申し送りの上、ご本人様の現状把握をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画はこちらから与えるものでなく、ご本人様・ご家族様から与えられての介護計画を行っています。	家族からの要望や意見を訪問時に前もって聞いて、アセスメント表に記録しておき、医師・看護師の意見を参考に担当職員や事務長、ケアマネ、ホーム長が相談し計画を作成しています。4ヶ月に1回モニタリングし随時見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画は身体状況の変化や、日々状況により見直しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様・ご家族様の状況変化による必要なニーズには即対応しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	観光資源において出来る限り活用し、豊かな暮らしを楽しめる様取り組んでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご要望に応じた病院への受診を行っております。	利用者のほとんどが、提携病院の内科医による月2回の訪問診療を受けていますが、中には以前からのかかりつけ医へ通院する人の支援もしています。週1回歯科医の訪問診療があり、整形外科や眼科などは随時通院支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の医師の訪問受診があるので、医師と当社の看護師の情報は密に行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との関係向上に努めています。情報交換は密に行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期については、ご入所時に話し合っております。ご本人様・ご家族様のご要望に応じて支援してます。	入所時に過ごし方の方針を決めて同意書をお交わしています。家族の希望も聞いて対応出来る範囲で支援するようにしています。緊急時にはホームの運営代表者が対応する事になっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の医療器具一式を用意しています。医師による利用方法の講習を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等により、避難の方法を全職員が理解しています。	避難訓練は定期的には行っていませんが、今年から年2回行う予定です。自動通報装置、スプリンクラーが設置され、備蓄用水タンクを備えています。近隣の代表者自宅を避難場所にしており利用者が1ヶ月凌げる食品を備蓄しています。	地域住民との声かけ等の連携が取れていないので、今後避難訓練等に参加を促すなど地域との防災協力を検討することが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人様を尊重した、言葉遣いをしています。	利用者は、苗字に「さん」付けで呼ばれています。新人職員には1時間のオリエンテーションで、また現任職員には個別に折々にホーム長が指導して利用者のプライバシーが守れる環境を造っています。	サービスの基本的接遇をもとに、代表者自らホームの方針とマナーの徹底を月1回の会議で指導しているということなので、今後も指導を継続することが期待されます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の声かけなどにより思いや希望を把握出来る様努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様本意での介護を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは必ず行い、ご要望に応じ美容室などへお連れ致しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や配膳・後片付けなどは皆で行います。	職員に支えられながら、利用者は出来る力を発揮しています。業者から調達した食材を工夫して調理しており、朝食にパンの希望などがあれば、家族と相談して対応しています。利用者の希望で外食企画をしたりイベント食を楽しんだりしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取や栄養バランスの管理を行った支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎日確認し、ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくおむつを使用しないなど、自立支援のお手伝いをしています。	排泄の自立している利用者は約半数ですが、職員は細かな注意を払い、利用者の表情や諸動作から、どういった排泄援助が必要かを読み取っています。2時間毎の声かけやトイレ誘導で利用者は失禁のない状況が続いています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便周期を管理し、体調に応じた食事などで支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人様のご希望時により、入浴可能となっています。(深夜を除く)	基本的に週3回午後1:30~4:30の間で入浴支援をしています。約半数については、シャワー浴での支援を足浴しながら行っています。時々入浴剤を入れたり、菖蒲やゆず湯を楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気温の管理、衛生的な布団の用意など、心地よい状況を提供しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は全て理解しています。使用による変化に応じ医師への相談の上、理解を深めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の能力を活かしたレクリエーションなどを行い、皆が楽しめる空間作りを提供しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は頻繁に行っています。四季に応じ、遠方へのドライブにも出かけます。	積極的には出たがらない利用者の場合は、興味を引くよう上手く誘って外出を促したり、家族の協力を得る等しています。費用の面で家族の思いが分かれる事もありますが、季節の花見や公園など車で出かけたり外食の為のドライブ等を支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当社にて、お金を管理している方もいますが、使用はご本人様に行っております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は自由に行える様になっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季のある空間作りに努めています。不快な刺激を受ける環境はありません。	1階2階それぞれにトイレ2ヵ所、洗面台、風呂が備わっており、リビング・ダイニング・キッチンが一体になったリビングにはテレビ、ソファが備わっています。季節感を出す装飾を都度、利用者が職員と一緒に作成しています。清潔感を保つ為職員が毎日清掃を行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内でのソファ空間や畳空間などでお話出来る場所を設けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の好きな物を何でもお持ち込み頂いております。(火気・危険物を除く)	居室はクローゼット、エアコン、防炎カーテンが備えつけで、ベッドはレンタル、その他は持ち込み自由になっています。利用者はタンス、仏壇、化粧台など好みのものを持ち込み心地よく過ごせるよう工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	設計時に工夫しています。(トイレ・風呂や生活リハビリ空間など)		